

第 99 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 中川 貴之

(和歌山県立医科大学薬学部病院薬学／附属病院薬剤部 教授・薬剤部長)

2025 年 10 月 25 日（土）に和歌山県立医科大学薬学部大講義室（和歌山市）にて、第 99 回医療薬学公開シンポジウムを対面形式で開催しました（主催：一般社団法人 日本医療薬学会、後援：一般社団法人 和歌山県薬剤師会、一般社団法人 和歌山県病院薬剤師会）。本公開シンポジウムのメインテーマとして、「薬薬学連携推進による地域医療への貢献」を掲げ、病院、診療所と薬局、さらにそこに大学が加わり、3 者が連携を深めることで、いかに地域医療に貢献していくか、ということを中心に、各演者にご講演頂き、議論を行いました。

開催当日には、和歌山県内や大阪南部、またそれ以外の地域からも薬剤師や薬学生を中心に 76 名（病院薬剤師 33 名、薬局薬剤師 11 名、大学教員 16 名、薬学生 13 名、その他 3 名）の方にご参加頂きました。当日、少し天気が崩れてしまいましたが、幸いにも開催直前および終了後にはぎりぎり雨もやみ、参加者が雨に濡れるということはそれ程なかったかと思えます。

本公開シンポジウムのプログラムは、特別講演 1 題、シンポジウム 1 セッション 4 題、口演 2 題で構成しました。特別講演では、和歌山県立医科大学薬学部 教授・副薬学部長の松原和夫先生に「双方向の情報共有への模索～地域におけるチーム医療が未来への鍵」と題して御講演頂きました。これまでの薬剤業務の歴史から現在に至るまでの発展を、ご自身の経験を踏まえながら分かりやすくお話し頂き、特にそれぞれの立場同士の情報共有の大切さ、また、地域で皆が“チーム医療”として進めていくことの大切さをお話し頂きました。また、シンポジウムでは、「薬薬学連携推進による地域医療への貢献」のメインテーマのもと、以下の 4 題の講演が行われました。

「大学と薬局が連携して実施するヘルスケア実装研究」

岡田 浩 先生（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 特定教授）

「DX を活用した多様な機関連携による地域医療モデルの未来構想」

座間味 義人 先生（岡山大学病院 薬剤部 教授・薬剤部長）

「京都における医薬情報連携の活性化に向けた取り組み」

寺田 智祐 先生（京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長）

「医療 DX×地域連携：薬剤関連情報のこれから」

池田 和之 先生（奈良県立医科大学附属病院 薬剤部長）

シンポジストの先生方は、現在、非常にご活躍の先生ばかりで、ご自身の先端的な研究や取り組み、さらには今後の地域医療発展のための大きなヒントをご提示して頂きました。また、口演として、和歌山県内の薬局（中央薬局 金子 雅好 先生）、病院（和歌山労災病院薬剤部 稲葉 静香 先生）から、和歌山での地域医療推進に向けたそれぞれの取り組みについてご紹介頂きました。どの先生方からも今後の医療を支える力強い御講演を頂いたものと感謝しております。

最後に、本公開シンポジウムの開催にあたりご講演を賜りました演者の先生方、座長の労をお取りいただきました先生方、及びご後援頂きました和歌山県病院薬剤師会、和歌山県薬剤師会、当日運営に携わった当研究室のスタッフ・学生達、さらに、企画や運営に対し終始懇切丁寧にご対応頂きました日本医療薬学会事務局の方々に心よりお礼申し上げます。